
夢のような浮遊感

蓬 哉人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢のような浮遊感

【Nコード】

N9163C

【作者名】

蓬 哉人

【あらすじ】

友達の大切さってモノを表現してみました。やっぱり友達の暖かさはそう簡単に得られるモノじゃないんだなと書きながら思いました。

いつかの夢の中の事…

いつのまにか私は寝ていた

変な感覚を感じ

少し悪寒を感じた

目を恐る恐る開けると

其処には皆がいた

私の大切な友達と言う名の

”家族”が

皆を見てホッとした私は

手を伸ばした

皆は笑って手を

差し出し返してくれた

でも安心感も束の間

もう少し…

もう少し手が触れる所で

目の前から皆が消えた

伸ばした手は虚しく空だけを掴み

伸ばした意味を無くした腕は

重力に従ってぶらんと垂れ下がり

ただ私は呆然とその場で

一人立ち尽くす

さっきまで其処にいたのに

… 何処へ行つたの？

妙な温かさだけがその場に残る

『行かないで』

『離れないで』

寂しさに崩れた私

惨めに一人

床に水溜りを作る

余韻の温かさが切なくて

悲しくて

愛しくて

でも

どうしようもなくて

その場所には私の声だけが

虚しく響き渡る

泣き止んだ私はまた立ち上がって

また目を開ける

ほら 信じていれば

また其処に皆はいた

今度こそ

と私が再度手を伸ばすと

其処にはちゃんと

本物の温かさがあった

伸ばした手はちゃんと届いていて

触れた手にはいつもの温もりがあつて

私はとても安心した

でも不安は完全に消えなくて

『…夢じゃないよね？』

『皆は私を置いていかないよね？』

私そう控えめに皆に問いかけると

一瞬キョトンとした表情をしたものの

すぐに眩しくて暖かい笑顔で

”そんなわけじゃないじゃない”

と返してくれた

さっきまでの不安と悲しみは

いつのまにか消えていた

私はいつまでもこの温もりを

手放すことは出来ないだろう

（後書き）

初！小説です^^

途中までは暗く…でも、

最後はハッピーエンドで終わらせてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9163c/>

夢のような浮遊感

2011年1月30日15時42分発行